

令和6年度 第2回 城陽市環境審議会 議事録

日時	令和7年2月6日（木） 午後2時～4時
場所	城陽市役所本庁舎2階 第1会議室
議題	①令和5年度城陽市環境マネジメントシステム（J-EMS）実施結果について ②第3次城陽市環境基本計画の策定にあたって ③城陽市大気・水質（河川）測定方法の見直し（案）について
出席者	委員 新川会長、中川副会長、山縣委員、田浦委員、中原委員、弘本委員、山岡委員、小谷委員
	行政（事務局） 森田市民環境部長、堤市民環境部次長、成田環境課長、太田主任

＜質疑等の概要＞

（以下、会長発言を「会」、委員発言を「委」、事務局発言を「事」とする。）

①令和5年度城陽市環境マネジメントシステム（J-EMS）実施結果について

事務局より説明。

- 委) P12 の表において、温室効果ガス排出量のA重油が増えているのは、灯油の減少と関連したものなのか。
- 事) A重油は灯油の減少とは関連はなく、ある施設で使用しているものとなる。A重油の追加タイミングによって、増減割合が変わってくる。
- 委) P6の実施結果を見ると、アンケート等で意見収集をしているようであるが、収集結果等は取りまとめされているか。また、公開はされているか。
- 事) 取りまとめしており、取りまとめ結果の中で取り入れられるものについては、翌年度のJ-EMSのPDCAサイクルにおいて改善を図っているが、公開はしていない。
- 委) 重要な指摘や結果があれば、可能な範囲でまたご報告いただければと思う。
- 委) P4-5の外部アドバイスや指示事項を見ると、「アドバイザーにご意見を受けた上で環境方針の改定を行うこと、環境政策担当部長は次年度に向けて環境方針及びマニュアルを見直してシステム改善を行い」との記載があるが、現時点で令和7年度が迫ってきている状況となっているため、報告にあたっては、見直し内容について説明いただける方が納得しやすいかなと思います。また、膨大な作業をされているかと思うが、作業を前倒しできないか等、PDCAサイクルのスケジュール感が気になった。業務のご事情等もあるかと思うので、状況を伺いたい。
- 会) J-EMSの実施結果報告は令和5年度のものとなっているが、現時点で令和6年度の終盤となっているため、令和5年度の実施結果において指摘があった点等についてど

のような改善があったか報告可能な点があればご説明いただければと思う。

- 事) 報告が遅くなってしまって申し訳ない。環境方針については、エコプランの改定に合わせて改定を実施している。J－EMSマニュアル等については、これまでに資料が分かりづらいとの指摘を受けていたため、報告資料を一本化し、マニュアルも改定した。今年度の状況としては、環境監査が終了し、現在外部アドバイザーに意見をいただいているところ。J－EMS実施結果報告が遅くなった理由としては、エコプランの改定に伴い温室効果ガス排出量の算定方法等を大きく変更したために作業時間を要したことと、今年度は審議会の開催が複数回あり、議題も多かったことから、今回の報告とさせていただいている。
- 事) 実施結果について、見える化の資料が付いていた方が良かったかと思う。次回以降は見直しをかけていければと思う。
- 委) 監査結果や環境目標等に対する取組結果を見る限り、システムが機能していると思う。P 5 の環境方針の改定における「革新的な取組」との文言が肝になるかと思う。この文言が反映されることが重要だと思う。また、P 12 のA重油の使用量は少ないかと思うが、A重油でなければならない理由はほとんどないかと思うし、使用部署も限られているかと思う。次の機器更新のタイミングも分かると思うので、更新時にA重油以外に変更していくこと必要かと思う。P 14 の温室効果ガス排出量について、街灯はLED化により7割減少と聞いているが、衛生センターと公民館の減少率が大きい要因について教えていただきたい。
- 事) A重油は給食センターで使用している。建設後20年程度になるが、設備更新のタイミングについては確認していく必要があると思う。衛生センターはボイラーの故障により、使用量が減少しているため。公民館は元々あった公民館が廃止された影響。なお北公民館については、公民館機能が北部コミュニティセンターに移行している。
- 委) 残っている公民館は、久津川公民館だけか。
- 事) お見込みのとおり。
- 委) 城陽の市民として気を付けて行って欲しい取組はあるか。普段から何をすべきか考えて生活しており、例えば出汁をとったかつおぶしを肥料にしたりしているが、国民一人一人が日常の中で汚染に対して活動していくことが大切だと思っている。J－EMSのようなプロジェクトがあることを初めて知ったが、一般市民に訴えるようなものはないか。
- 事) 環境問題を地球規模で考えていく中で、一人一人ができることは限られていると啓発する側として感じている。環境基本計画の推進団体である城陽環境パートナーシップ会議の合言葉が「できる事から少しずつ」とさせていただいており、一人一人ができる事を意識し積み重ねていくことで大きなものになっていくことが大切なのではないかと思う。
- 事) J－EMSは、市役所での事務事業の中での温室効果ガス排出量の把握と、排出量削減に向けての取組等について実施しており、これは家庭での取組とほぼ同じであり、例え

ば生ごみの水を切って捨てるとか、肥料として利用する等の取組を実施し、いかに排出量を抑えていくかが重要であり、市も市民も一体となって取り組んでいくことが大切である。

事) 繰り返しになるが、J-EMSの実績報告では市の一事業所としての取組について報告させていただいている。一方、市民に対しての発信としては地球温暖化対策実行計画を策定し、市民に取り組んでいただきたいことや市としての啓発について記載することで、市民一人ひとりが対応していただき積み重ねていくことでの行動変容をお願いするものになっているのかなと思う。

委) J-EMSはPDCAで回していこうということだが、市民の取組についてどのようにPDCAを回していくかの仕組みが大切だと考えている。取組は大切だが、その結果の把握や次につなげていくことが重要であり、それが出来ていない状況が歯がゆいのではないかと感じている。

事) エコプランであれば、電気使用量等で数値化した結果を把握することができるが、市全体の取組（地球温暖化対策実行計画（区域施策編））については、指標も含め把握が難しいところ。

事) 電気代であれば、アプリ等で電力会社が見える化を報告してくれることで各自が削減率等の気付きになり、次の取組に繋がっていくと思う。そのような工夫が必要なのかなと思う。

委) 基準年度比で温室効果ガス排出量が減少している項目が多いのは素晴らしいことだと思うが、その結果を市民が知ることや、市民一人一人の意識が大切だと思う。

会) J-EMSは市役所での業務等に係る環境管理が中心だが、地球温暖化対策という点では、城陽市全体の活動について変えていかないといけないということで、現状は啓発に留まっているが、例えば企業に環境管理システムを使っていただいたり、家庭で活用できる環境家計簿型等の仕組みを紹介したりと、城陽市全体で仕組みを使っていけるような文化作りに繋がっていくと、一人一人がPDCAサイクルを回していく城陽になっていくのではないかなと思う。

委) 環境目標を達成していて素晴らしいが、目標のハードルが低いかどうかの検証は必要かなと思う。また、小・中学校で様々な取組をされているが、今後やっていくべき事項として、断熱のワークショップが広がってきている。京都府内では、亀岡市内の中学校で実施しており、他の市町村でも検討が始まっている。なお、京都府の温暖化センターで体制作りもできつつあるため、城陽市の小・中学校においても、専門家や生徒・先生、地元の工務店が連携し断熱を実施することで、温室効果ガス排出量の削減に繋がると共に、学習環境の改善に繋がる。費用はかかってしまうが、城陽市でもこのような取組を進めていく必要があるのではないかなと思う。

会) 温室効果ガス排出量の削減目標に向かって削減していくことが重要であるが、目標達成に向けての初期値の捉えなおしについても今後検討してもらえればと思う。また、学校断熱については、生徒自身が実施している学校もあるので、城陽市でも進めて行って

いただければと思う。城陽市で実施はしているか。

事) 実施していない。安全面も考慮し、工務店等の協力がポイントになるのかと思う。

委) 学校で使用するエネルギーとしては、エアコンの影響が大きいのか。

事) お見込みのとおりかと思う。

委) 温度設定の推奨等はしているのか。

事) している。環境課を通して、温度設定について啓発している状況にある。なお、コロナ禍では換気の必要があったため、少し例外的な対応を取っていた。

②第3次城陽市環境基本計画の策定にあたって

事務局より説明。

委) 第3次になるため、大きな枠組は変わらずに策定に取り掛かれるのではないかと感じている。その中で気になったのは、J-EMSと比較し目標達成項目が少ない点。目標達成が少ない理由について、もう一度検証してみる必要があるのではないかとと思う。気候危機などの状況が大きく変わっていく中で、目標をどのように達成するかという点でP5の「革新的な取組」も含めて検討を進める必要があるかと思う。気候市民会議といって、無作為に選んだ市民が集まり、基礎的な情報収取の上で意見を出し合うという仕組が出てきている。市民の意見も取り入れながら進めていく手法があってもいいのではないかとと思う。

会) 今後の計画作りにあたり、先程ご指摘のあった点について、城陽環境パートナーシップ会議やその他環境団体の協力も得ながら、新たな市民参加の方法も含め検討いただければと思う。

委) 城陽環境パートナーシップ会議で熱心に活動されているが、年数を重ねてくると高齢化していきがちであり、新たな方が加わりにくいという状況が他で見受けられている。新たな方が加入しやすい空気を作っていくためにも、先程の提案のような新たな市民参加の手法を取り入れて城陽環境パートナーシップ会議に新たな空気を入れていく仕組み作りができれば良いのではないかとと思う。城陽環境パートナーシップ会議の活動を活用しながら、タウンミーティング的に進めていくのも良いかと思う。また、城陽市は学校との関係を大切に築いてこられたことが特徴だと思っており、アンケートを丁寧に取り上げられている点などで実績をお持ちなので、これをもう一步進めて意見を引き出していくことで、次に繋がっていくと思うので、現状をさらに発展させていくように検討してもらえればと思う。

会) 小・中学校も含めて、その力を次の環境基本計画に活かしていくとの提案をいただきました。城陽環境パートナーシップ会議の件も含め、様々な手法を検討いただければと思う。

委) 小学校のトイレは、洋式が導入されているのか。学校によって状況は異なるのか。

事) 学校によって状況は異なるが、洋式化を進めている段階にある。あいにく実績数値は持ち合わせていない。

- 委) 洋式化について、順次進めていただきたい。また、目標達成できていない項目が多くあり、達成が困難な項目もあるかと思うが、現時点でテコ入れする必要があると考えている項目等はあるか。
- 事) ようやくコロナ禍が明けたところで、コロナ禍で下がった実績からの変化を分析していきたいと考えている状況である。
- 委) 目標達成について、危機的状況だと思われる。テコ入れする必要があるのではないか。
- 事) さんさんバス等、各所管部局で事業を進めているところなので、その状況を把握していく必要があると思う。
- 委) さんさんバスについては、以前と比べて利用者が増えていると感じる。バス停で待っている方も多くなっている気がする。少しテコ入れすることで、大きく改善するのではないか。
- 委) さんさんバスは、なかなか目的地までたどり着くバスがない。目的地までに2本つなぎであったり、電車とバスの乗り継ぎがあったりと、一筋縄ではいかない部分がある。
- 事) さんさんバスはルートを集約してきており、利用者が少ない場合に廃止になっているルートもある。
- 委) ルートが減っているのであれば、頻度を増やすのもいいかもしれない。目標の一つである小型家電回収量を増やすとは、どういうことか。
- 事) 公共施設に小型家電の回収ボックスを置かせていただき、本ボックスにより回収させていただく家電量を増やすというもの。
- 委) ホタルの観測地点数が大幅に減少しているのはなぜか。
- 事) 毎年度同時期に定点観測しているが、温暖化の影響等によってホタルの活動時期がずれており、活動時期に観測できていない可能性もあると考えられる。
- 委) 青谷で毎年6月にホタルの観察会を開いているが、ホタルの数が減ってきている状況にある。河川の環境改善により、ホタルが減ってきているというものもある。
- 委) ホタルの数を増やすのは難しいかもしれない。次回の目標数値等については検討した方がいいかもしれない。
- 委) 自然を守りつつホタルが増えていけばいいなというところだが、環境を綺麗にしすぎることによってホタルの数が減少していく可能性がある。また、自然についての目標で動植物が生息・生育できる自然環境を守り育てるとの記載があるが、青谷地区において猿や鹿に農家が困っているという状況にあり、目標をどうすればいいかという点もある。
- 委) 環境目標にあるように多様性は重要だが、農業環境を守るためにも害獣駆除はしていく必要があると思う。
- 会) 全ての生き物と城陽市民との共生というのは環境基本計画の一つの目標であるので、その点について検討していただければと思う。
- 委) 環境そのものがエネルギー政策、交通、まちづくり、農業全てに関わってくるものであり、気候変動対策をすることで生活の質改善や地域活性化などの副次的効果を生むものであるため、計画の中にそのような視点を盛り込むことが重要になってくると思う。

れる。

- 会) 第2次の計画策定の際も、様々な関連計画との関わりを考えながら数値目標を設定してきた経緯がある。総合計画や各種計画との関わり方を踏まえつつ、環境視点で市の計画の筋を通し直すのが環境基本計画であるため、その辺りも考慮して策定いただきたい。
- 会) 第3次の計画策定にあたっては、環境基本計画としてより良く機能するよう、総合計画や他の計画との効果的で整合性の取れた環境視点での計画推進を念頭に置いた計画づくりを進められると良いとの意見をいただいた。計画策定時の目標や数値の設定について、これまでの計画の進捗等を確認の上、気候変動や生物多様性といった目標に向けてより具体的に城陽市の中で何を実現していくのか、理想に近い目標をどういう手段で繋げていくのかを検討する良い機会だと思って、検討を進めていただければと思う。計画策定にあたり、市民参加や協働のご意見をいただいた。その中には、城陽環境パートナーシップ会議や学校・園などの新たな担い手を新たな計画に巻き込んでいけるかも含め、計画作りをしていただければと思う。

③城陽市大気・水質（河川）測定方法の見直し（案）について

事務局より説明。

- 委) 場所によっては、測定の連続性が途切れるのは残念であるが事情もあるかと思う。測定結果が良くなっている、安定しているから見直すというのは、考え方としては良くないかなと思うが、それでも十分なデータは取れるので、仕方ないかなと思う。
- 事) 新名神開通前後で変化が見られる地点は測定を継続するし、その他の地点についても、随時必要に応じて地点の追加・削減を実施していくことを検討している。
- 会) 測定の数値が安定しているからではなく、手間暇、経費などの致し方ない事情もあるのだろうとの意見をいただいた。環境測定においては、状況に応じて充実させていかなければいかなかったり、地域に応じた測定の仕方を検討していかなければいけなかったりと、新名神開通も含め今後の課題にしていただければと思う。
- 委) 前回の会議の際、PFASの件について質問があったかと思うが、現状について教えていただきたい。
- 事) PFASの関係は京都府が所管となっており、京都府のHP上において測定結果が公開されている。前回の会議において2地点で超過とお伝えしたが、追加調査の結果が掲載され、現状8地点となっている。調査は継続中であるため、更に地点数が増加する可能性はある。但し、最高値は290より大きな数値は出ていない。
- 委) 超過地点はどこか。測定は表面流と地下水のどちらか。
- 事) 城陽市内である。申し訳ないが、詳細な地点はお答えできない。全て地下水となる。
- 委) ホタルの件など、市民生活にどう関わるか等の観点も含め、見極めが必要かと思う。
- 会) ホタルなどの生物指標は大気や水質の状況を見ていく際に重要であり、測定の見直し、環境基本計画の策定などの際の指標として考えていかなければいけないと思うので、

次年度以降に検討していただければと思う。

委) グラフの濃淡が分かりにくいので、線に色付けしたり線の種類を変えたりしていただけると分かりやすくありがたい。

以上